



2025年 1月10日 金曜日
(令和7年)

知・技の創造

ものづくり大学発

▷109◁

30、40代の大半は、海外の紛争地や自然災害の被災地で過してきた。アフガニスタミ、ユニセフによると世界でシエラレオネ、コンゴなど、通常見聞できない土地での生活で「世界を変えるデザイン」(原題: Design for the other 90%)を強く意識してきた。私たちの住む日本では、新らしいもの、きれいなもの、珍しいものなど「欲しいもの」は次々に作られ売られている。世界に目を向けると、1

デザインで世界から街へ

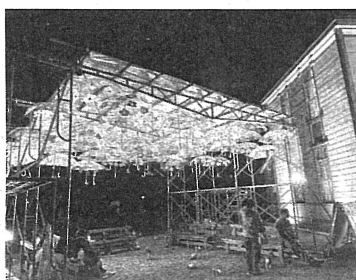
今井弘 建設学科教授



いまい・ひろし 三重大学博士後期課程修了、一級建築士。設計事務所、NGO、JICA、建築研究所、防災科学技術研究所を経て、2019年より現職。主に設計、製図、構造の授業を担当。

動台実験を何度も実施し、大なる人命を守るための効果的な

地震下でも蛇籠壁は大変形するものの倒壊はしないことが目指す。



現在、「行田まちなか再生未来ビジョン」の策定に取り組んでいる。長期的な視野に立ち将来を担う子どもたちがワクワクできるような街づくりを目指す。

これから真のニーズに焦点を当て、デザインを通じた社会貢献をしていきたい。世界から身近な地域をフィールドとして、学生と共に笑顔と技術力を備えたテクノロジー人として活動していく。

目からうつりてあつた。十分通して、確実に耐震性の高いな量は水は重く重労働である。建物に普及するに至った。それが、75%の水を子ども一人れでもヒマラヤ山系の山岳地で運べる。欲しいもの「では帯の村々では、建設材料の搬入が困難で、倒壊したまま取すく運搬もしやすい。また住真のデザイン。それが世に残されていたり、石を積み人たちの手により現地で編む

行田市水城公園に設置した手描き花水筆の仮設休憩所

デザインであると考えて。19年に本学に着任してから、官民学連携で行田市や熊谷市の街づくりに取り組んでいる。本学ならではの知と技を融合し、学生と共に仮設休憩所や屋台制作など地元を盛り上げる活動を行ってきた。